

際立つ新興国の力強い経済成長

IMF(国際通貨基金)は1月25日に発表した最新の世界経済見通しで、2011年の世界経済の成長率予想を4.4%と、前回(昨年10月)の見通しから0.2ポイント上方修正しました。昨年12月に成立した所得税減税(ブッシュ減税)延長などの大型景気対策の効果で、米国の経済成長率を上方修正したことが大きく寄与しました。

IMFでは今回の見通しにおけるリスクとして、ユーロ圏の財政問題や新興国での大量の資本流入などを挙げていますが、「現在の政策措置により、金融の混乱とその実質的な影響はユーロ圏周縁国に留まり、世界経済回復への影響は限定的である」とし、加えて、「新興国の政策当局が、景気過熱圧力を抑制すべく、適時対応することも想定している」ことが基本にあることを示しています。

なお、IMFでは先進国について、依然として成長が抑制されており、高い失業率が改善するには不十分ではあるものの、米国の成長率の上方修正や、日本の緩やかな景気回復などを受け、2011年の成長率予測を前回見通しから上方修正しました。一方、新興国については、2011年についても力強い成長を続けると予測しており、引き続きアジア地域が最も急速な成長を見せるとの見方を示しています。また、サハラ以南のアフリカが、アジア地域に次いで成長すると見込んでいます。

リスク要因を抱えながらも世界経済の力強さが確認される中、2011年および2012年ともに新興国の経済成長率は先進国を大幅に上回る見通しで、景気回復の二極化傾向は一段と鮮明になっています。

IMFの世界経済見通し

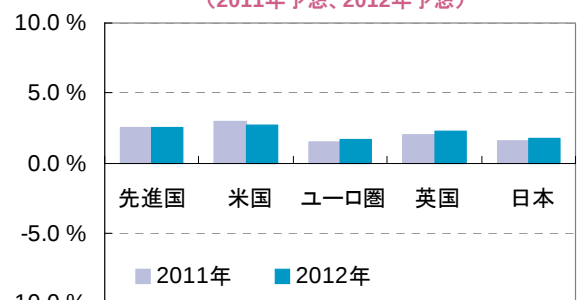
(白背景部分は2010年10月時点の予想との比較)

	2009年	2010年	2011年予想		2012年予想	
世界	-0.6 %	5.0 %	4.4 %	0.2	4.5 %	0.0
先進国	-3.4 %	3.0 %	2.5 %	0.3	2.5 %	-0.1
米国	-2.6 %	2.8 %	3.0 %	0.7	2.7 %	-0.3
ユーロ圏	-4.1 %	1.8 %	1.5 %	0.0	1.7 %	-0.1
英国	-4.9 %	1.7 %	2.0 %	0.0	2.3 %	0.0
日本	-6.3 %	4.3 %	1.6 %	0.1	1.8 %	-0.2
新興国	2.6 %	7.1 %	6.5 %	0.1	6.5 %	0.0
中・東欧	-3.6 %	4.2 %	3.6 %	0.5	4.0 %	0.2
ロシア	-7.9 %	3.7 %	4.5 %	0.2	4.4 %	0.0
アジア	7.0 %	9.3 %	8.4 %	0.0	8.4 %	0.0
中国	9.2 %	10.3 %	9.6 %	0.0	9.5 %	0.0
インド	5.7 %	9.7 %	8.4 %	0.0	8.0 %	0.0
中南米ほか	-1.8 %	5.9 %	4.3 %	0.3	4.1 %	-0.1
ブラジル	-0.6 %	7.5 %	4.5 %	0.4	4.1 %	0.0
中東・北アフリカ	1.8 %	3.9 %	4.6 %	-0.5	4.7 %	-0.1
サハラ以南のアフリカ	2.8 %	5.0 %	5.5 %	0.0	5.8 %	0.1

(出所:IMF「World Economic Outlook Update, January 2011」)

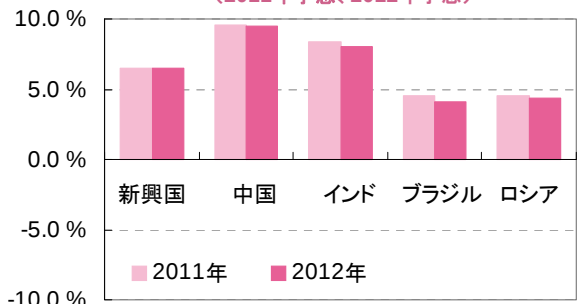
先進国の経済成長率

(2011年予想、2012年予想)



新興国の経済成長率

(2011年予想、2012年予想)



※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。